

平成28年度 地方創生加速化交付金(総括表)

交付金による実施事業の名称	事業概要	事業実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	事業に対する評価	
			指標	指標値	目標年月			
1 産官学連携エコシステムによる恵みの海「有明海」活性化事業(荒尾市・長洲町連携事業)	<p>長洲町では、干潟の環境悪化や海水の変化により、平成元年頃から漁獲量が激減し、漁業者の数も最盛期の596名(昭和45年国勢調査)から67名(平成25年漁業センサス)に大きく減少している。これは、漁獲量の減少による漁業者の収入減少が要因と考えられ、今後は、この漁業をはじめとした一次産業の再生として、漁場の環境整備と雇用の確保などが求められる。</p> <p>これらの課題を解決するために、あさり貝漁獲量の向上及び有明海の干潟保全を図るため、エイなどの有害生物の除去や調査研究を行うとともに、企業による漁業への新規参入をはじめ、産官学連携による栽培漁業の確立を図ることで、市場ニーズに対応できる海苔やあさり貝の効率的な生産体制を構築し、漁業者の所得向上はもとより、次世代の人材を育成していくことで、付加価値の高い新たな産業を創出する。</p>	19,670,434	指標①	漁業出荷額の増加	21,181千円増	H30.3	105,156千円減	<p>有明海産の海苔を活用した新商品の開発について、どれくらい期間を目標に商品化につなげていくのかを明確にできればと思う。また、商品開発として、食品としての商品化だけではなく、それ以外のものとしての活用も検討してはどうか。商品とならない海苔や粉末状の海苔を100%使った商品を作るのではなく、ほかの素材と混ぜて作ることも検討すれば、さらに商品化への道が広がると思う。</p> <p>KPIについては、漁業出荷量など、数値的に目標値へ達していないが、自然相手のものでもあるので、現実的に達成できるのか心配する。また、新たな海苔製造業者の育成においては、現在、4名が海苔製造業務に関するノウハウの取得に取り組まれており、自立することが期待される。どの目標値においても、2、3年ですぐに結果が出にくいと思うので、長い目で見て事業に取り組んで行く必要があると考える。</p> <p>干潟の保全については、事業を実施されていることで、確実に効果が出てきているのではないかとと思う。有明海の再生に向けては、沿岸の自治体が連携し、自分の地域の課題として取り組んで行かなければならないと思う。</p>
			指標②	教育旅行の予約獲得数(件)	1件	H30.3	2件	
			指標③	水産業における新規就業者数(経営体)	5経営体	H30.3	0経営体	
			指標④	アサリ漁獲量(t)	50t	H30.3	126.51t	
2 金魚のまち「ながす」魅力向上プロジェクト	<p>町内外から年間約30万人が訪れる金魚と鯉の郷広場の有効活用を図るために、現在、整備されている「金魚の館」の横に新たにカフェテリアとして建物を整備し、地場産品等を活用した飲食物等の提供をはじめ、販売スペースを整備することで、同施設の魅力向上による集客力のアップを目指す。また、施設整備を図ることで来場者の観光消費額の増による地域経済の活性化を図る。</p> <p>また、地域雇用創造協議会「シャインながす」において、町内の地場産品を活用した商品開発(六次産業化)を進め、その開発した商品などを整備した店舗で提供するほか、地方創生加速化交付金を活用して金魚マイスターの育成等にも取り組んでいることから、関連事業と連動させて相乗効果を高めていく。なお、施設の運営にあたっては、町内の商工業者や金融機関と連携し、「地域商社」を立ち上げ指定管理者として施設の運営を行う。</p>	15,918,200	指標①	金魚と鯉の郷広場における売上高(千円)	8,000千円増	H30.3	2,388千円増	<p>KPIの売上高について、平成29年度は、カフェテリアが整備されなかったことから売り上げ目標が到達できなかったと思うが、カフェテリアが整備されなかったにも関わらず、ある程度の収益が現状の施設での販売で見込んでいるので、今後、カフェテリアや地域商社が商品販売等を実施することで、さらなる増額に期待する。また、金魚と鯉の郷広場への来場者数については、平成29年度の実績が思うように増加していない理由として、イベント時に天気が悪いことが一つあると思うが、今後、来場者を増やすためには、天候に左右されないイベントの検討も必要になってくると思う。</p> <p>地域商社設立への取り組みについては、委託事業により、地域商社が設立されたので、商品開発や販路開拓、体験プランの作成など、様々な事業展開を図られると思うが、事業展開にあたっては、カフェテリア、金魚の館などと連携した運営を図るなど、総合的に魅力度アップにつながるプロデュースが必要になると思う。今後の展開に期待する。</p>
			指標②	金魚と鯉の郷広場年間来場者数(人)	2,500人増	H30.3	8,016人減	
			指標③	町内新規雇用者数(人)	4人増	H30.3	0人	
			指標④					